

津波避難施設整備の位置付け・考え方

上位計画:「仙台市震災復興計画」、「仙台市実施計画」等

「津波避難施設の整備に関する検討委員会」での検討

- 学識経験者及び地域代表者で構成
- 避難のあり方や避難施設・避難道路の整備の考え方などについて検討

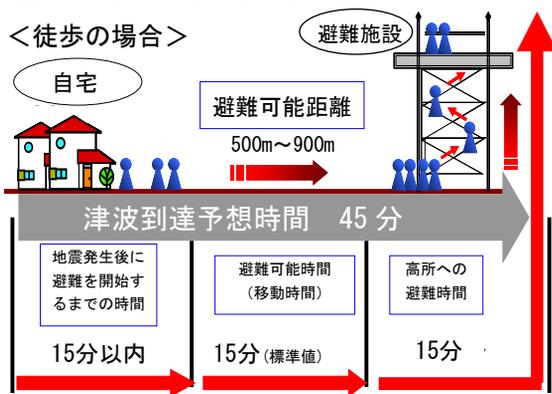
津波避難施設の整備に関する基本的考え方(H25.3月策定)抜粋

○対象エリアの考え方

対象エリア:仙台東部道路より東側を中心に津波避難施設整備の検討地域とする。*対象エリア外でも必要に応じて検討する。
津波到達予想時間:45分程度を設定する。

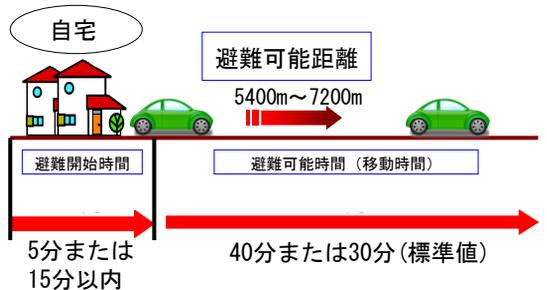
○徒歩・自動車避難の考え方

<徒歩の場合>



- ・原則徒歩による避難を想定する。(自転車も含む)
- ・自動車避難が想定される避難者を考慮する。

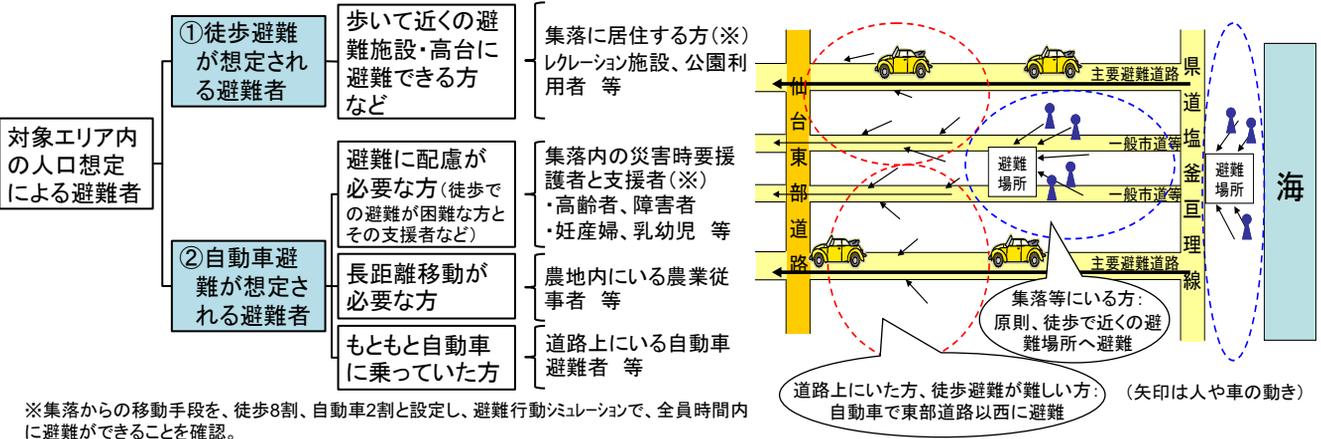
<自動車の場合>



○人口想定 of 考え方

震災前の主要な施設(集落※、公園等)や、復興事業(防災集団移転事業等)後の人口を参考にして想定する。
*災害危険区域は除く。

○避難行動の考え方



○施設の要件

規模・収容人員の考え方:

- ・避難可能距離、避難方法、人口想定、避難行動などに基つき設定する。
- ・避難者1人あたり1㎡程度の広さを確保する。

設備の考え方:

- ・高所移動への配慮 例)照明、外部階段の設置 等
- ・備蓄への配慮 例)水、食糧、医薬品、毛布、簡易間仕切り 等
- ・その他 例)トイレ、非常電源、情報機器、侵入防止の蹴破り戸等の設置 等

